

第14回汚職防止刑事司法支援研修について

富山地方検察庁 検事 大島憲太郎

私は、国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）で開催された「第14回汚職防止刑事司法支援研修」に参加しました。

本研修のテーマは、汚職防止のための効果的な刑事司法の運営の在り方であり、本研修には、日本を含む11か国の刑事司法関係機関から合計22名の研修員が参加しました。

本研修では、UNAFEI教官の講義、国内の刑事実務家の講義、海外から招へいされた客員専門家の講義などを受け、国際的な汚職対策の現状などについて学んだほか、各国参加者による発表や質疑応答、2つのグループに分かれてのグループワークショップなどを通して、研修参加者それぞれの国の汚職対策の現状などを学びました。

私は、この研修を受けるまでは、国際的な汚職対策の現状や、海外の国の汚職対策について、ほとんど何も知らない状態でした。

しかし、UNAFEI教官の講義、海外の客員専門家の講義などを受けたことで、汚職防止のためにUNCAC（国連腐敗防止条約）という条約が存在しており、世界の多数の国が批准していること、当該条約を受けて、海外の様々な国が、汚職の防止・処罰のために、日本ではいまだ導入されていない効果的な制度を導入していることを知り、日本の刑事司法制度にもまだまだ改善の余地があるということを知りました。

また、シンガポールと香港から来られた専門家の講義を聴いて、これらの国・地域においては、①汚職防止・摘発を徹底するために特別な捜査機関を置き、たとえ1ドルの汚職であっても許さないとの強い姿勢で捜査を行っていること、②公務員に裁量の余地を残すことが汚職につながるため、その余地を必要最小限度に止めるよう、ITを活用するなどして行政の効率化等を実践していること、③これらの努力により、汚職が極めて少ないクリーンな社会を実現していることなどを知り、刑事司法制度のみならず、日本の行政等においても見習うべき点が多々あると考えさせられました。

さらに、各国参加者の発表、グループワークショップなどを通して、海外の国の汚職の現状などを知ることができました。

その中で、ナイジェリアからの参加者が、「私の国は、石油などの資源もあり、国自体は豊かであるのに、人々が貧しい。これは、汚職がまん延しており、権力や富が一部の人間に集中しているからだ。」などと話していたのが印象的でした。

た。

汚職は、被害者のいない犯罪であるなどと説明されることがありますが、実際に汚職がまん延すると、社会に生きる人々の生活そのものに悪影響を及ぼし、社会の人々全員に被害が及ぶものであるということを強く感じ、汚職撲滅がいかに大切かを再認識しました。

ところで、私は、約1か月間、UNAFEIの寮において、海外からの研修参加者とともに寝食を共にしました。

最初の約1週間は、うまく英語を話せず、伝えたい内容をうまく伝えられない状況などがあって戸惑いましたが、徐々に、言葉とともに身振り手振りなどを用いることでコミュニケーションを取る方法を覚え、会話をすることができるようになり、海外参加者の方たちとどんどん親しくなって、楽しく生活することができました。

実は、私は、この研修中に結婚式を挙げたのですが、結婚に関して、ケニアの参加者からは「自分の結婚式は、スタジアムで挙げたんだ。1000人の客が来て、一晩中踊り明かした。」などと聞いたり、コンゴ民主共和国の参加者からは「自分の国では、結婚式を挙げた後、1週間の休みを取ることができる。なので、結婚してからちょうど10か月後には子供が生まれるのよ。」などと聞いたりし、とても興味深かったです。

海外からの研修参加者は、それぞれの国の刑事司法関係機関で一定の高い地位にある方々でしたが、皆さんとても気さくでした。例えば、ケニアからの参加者は、「うちの国は、観光に力を入れていて、観光客のためだけの特別な警察官がいるから安全だ。ハネムーンは、ケニアに来たら良い。」などと誘ってくれましたし、ネパールからの参加者も、「うちの国は、エベレストがあるし、ユネスコの世界遺産が7つもあって観光するには最適だから、ハネムーンはネパールに来てくれ。私が案内するから。」などと言ってくれました。

このように、各国の刑事司法関係機関で一定の地位にある方たちと我々日本人参加者が親しい関係を築けたことは、我々個人にとってはもちろんのこと、今後の日本の社会にとっても役に立つものであると思います。

今回の研修は、私にとって、新しい発見の連続であり、非常に有意義で楽しいものでした。

今回の研修に参加できたことを、とても嬉しく思っています。

ありがとうございました。